

トビウオ通信 (R6 第7号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和6年度マアジ新規加入量調査結果速報》

マアジ0歳魚（令和6年（2024年）生まれ）の新規加入量調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は、その年に生まれたマアジの加入状況を早期に把握するために、平成15年以降実施しています。

参画機関は、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所（以下、水研）、鳥取県水産試験場、山口県水産研究センター及び島根県水産技術センターです。

結果の概要

- マアジ0歳魚は、適水温帯(17~19℃)が広がる大田市沖以西の海域で多く採集された。
- 調査結果を基に計算した今年のマアジ0歳魚の加入量指数(来遊量の多さ)は、平成15年を1.00とすると1.07となり、昨年(0.70)を上回った。
- 今年のマアジ0歳魚の来遊量は、「前年並み」か「前年を上回る」と推測された。

マアジ0歳魚の採集結果と分布状況

令和6年（2024年）5月14日から6月13日にかけて、長崎県五島列島沖から鳥取県沖までの海域における106地点でマアジ0歳魚を対象とした中層トロール網を用いた調査を実施しました。その結果、尾叉長2~4cmサイズを主体に合計16,469尾（1地点当たりの平均採集尾数：155尾）が採集されました

（図1）。

採集されたマアジ0歳魚は、適水温と考えられる 17～19℃（水深 50m）の水温帯に多く分布していました。分布範囲は、例年同様、五島列島沖から鳥取県沖までの広範囲に及び、CPUE（1 曳網当たりの採集尾数）は、①大田市沖から長崎県沖にかけて多く、②日御碕沖から鳥取県沖にかけて少なくなりました。

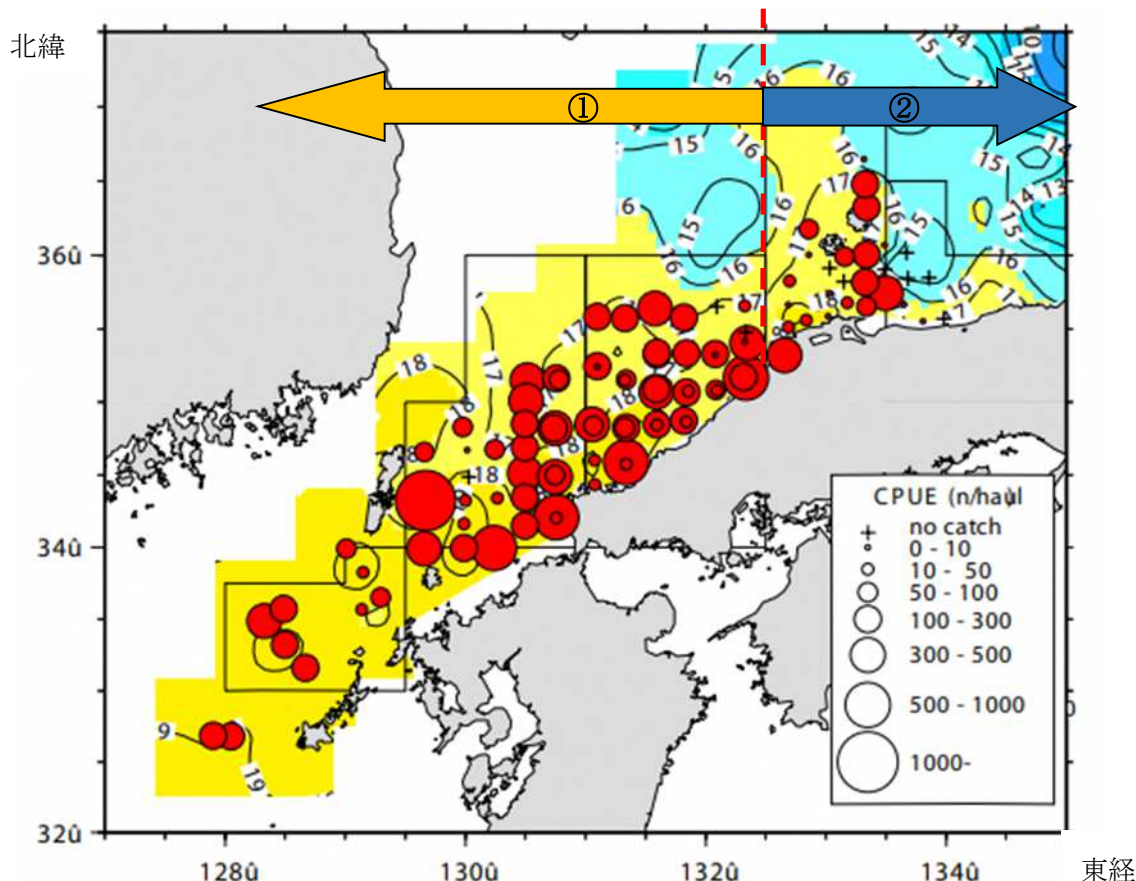


図1 マアジ新規加入量調査における令和6年のマアジ0歳魚の採集結果
 円の大きさはマアジのCPUE（1 曳網当たりの採集尾数）の多さを表し、+
 は採集されなかった点を表す。
 水深 50m の水温分布については、青色が 16℃以下、黄色が 16～20℃を表し、
 図中の数字は水温を示す。
 （資料：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所作成）

マアジ0歳魚の加入量と今後の漁況

マアジ0歳魚の分布量と調査海域の水深 50m の水温分布を基に、水研が算定したマアジ0歳魚の加入量指数（来遊量の多さ）は、平成 15 年を 1.00 とする

と、今年は 1.07 となり、昨年 (0.70) を上回りました (図 2)。このことから、今年のマアジ0歳魚の来遊量は、「前年並み」か「前年を上回る」と推測されます。

マアジは小型の0歳魚を漁獲するよりも1年後に成長してから漁獲したほうが単価は高く、資源を有効に活用できます。単価の低い小型魚を多く獲り過ぎてしまうと、将来の単価の高い大型魚の漁獲量が減るだけでなく、卵を産む親魚の減少にもつながるため、過度な漁獲圧力がかからないよう適切な管理を行っていくことが重要です。

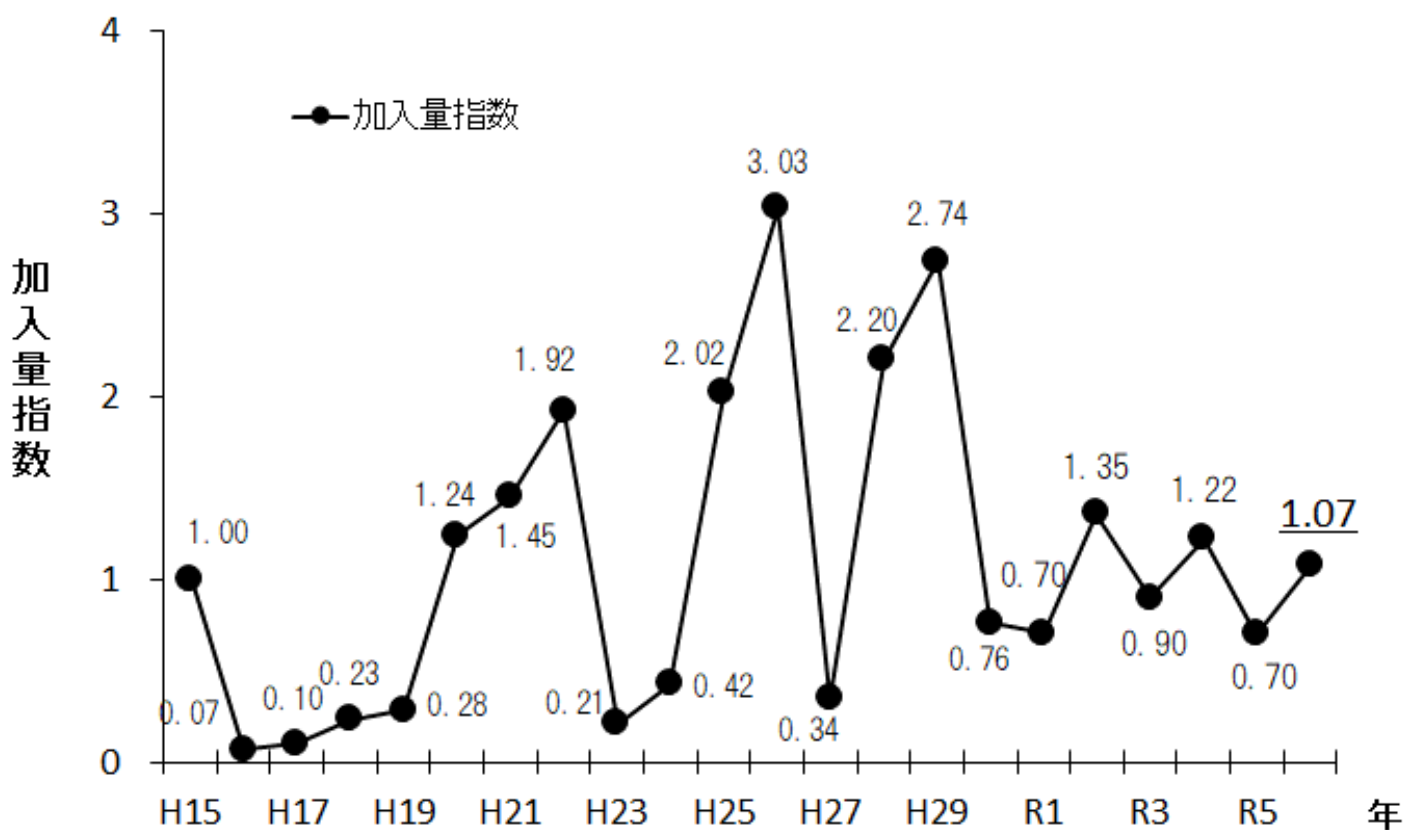


図2 マアジ0歳魚の加入量指数の動向

(資料：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所作成資料より一部抜粋)